



世界のトップ・アーティストたちの注目の公演

MUSE CONCERTS PICK UP

N響、読響、都響に次々と客演！2013年の日本ツアーでも大絶賛！

ドレスデン・フィルの新時代を築く

カ

ラヤン、バーンスタインとならぶ20世紀最大の指揮者クルト・ザンデルリンクの名前を懐かしく覚えていらっしゃるファンも多いことだろう。ドイツ音楽における最高の巨匠であり、またショスタコーヴィチとも大変親しい間柄であったため、このロシアの作曲家のスペシャリスト＝最大の理解者として世界中の尊敬を集め98歳という長寿をまっとうした。

そんな父クルトの血を受け継ぐサラブレッドが、息子のミハエル・ザンデルリンクである。しかし父はチェリストとして国際的な名声を博した息子ミハエルが、指揮者に転向することに強く反対したという。ミハエルの言葉を借りれば「カルロス・クライバーが父エーリッヒから反対されるより、さらに強く反対された！」という。結局、父クルトと大喧嘩をしてまで指揮者に転向したミハエルは、わずか数年のキャリアでヨーロッパでも最も期待される指揮者に数えられるようになり、バイエルン放送響、ドレスデン国立歌劇場管、ゲヴァントハウス管、日本でもN響、読響、都響が相次いで招聘するなど、まさに飛ぶ鳥を落とす勢いである。ドイツのオーケストラ・ファンの間では、世界の最高峰ベルリン・フィルにいつ招かれるのか、というのが注目の的となっているようだ。

そんな俊英ミハエルの音楽の特徴は、日本風に言えばまさに「温故知新」。父クルトを彷彿とさせる伝統的なドイツ風の重厚で渋い響き、そしてガーディナーやピノックが切り拓いた最新のピリオド奏法（作曲された当時の響きに忠実な奏法や楽器配置）の双方が見事に融和している。ブラームスにおいても、ベートーヴェンにおいても、伝統的な響きと現代的な感性の絶妙なバランスがミハエルの音楽の最大の美点といえるだろう。



裏へ



世界のトップ・アーティストたちの注目の公演

MUSE CONCERTS PICK UP

ブラームスも指揮した名門オーケストラ ベートーヴェン、ブラームスの傑作を驚きの **8000 円**で！



ヒヤエル・ザンデルリンクが首席指揮者を務めるドレスデン・フィルの歴史がまたすごい。

古くはニキシュに始まり、ワルター、クナッパーツブッシュ、E.クライバー、クレンパー、

小澤征爾などの名指揮者を迎え栄光の歴史を築いてきたが、驚くべきは 1870 年の創立間もない時期から、ブラームス、チャイコフスキー、ドヴォルジャーク、R.シュトラウスといった世界的な大作曲家たちを次々と指揮台に招き、彼らの自作を共に演奏してきたということだ！

1930 年代ヒトラーによるナチスの時代、オーケストラはドイツの文化的優位を示すプロパガンダとして利用され、大戦末期になるとドレスデンの街は激しい空爆を受けて街全体が灰燼と化すなど不幸な運命をたどる。さらに戦後アメリカ×ソ連の「東西冷戦」の時代になると、ドイツは東西に分断されドレスデンは、社会主義体制下に置かれることになる。秘密警察が横行し自由な芸術活動ができない時代、ドレスデン・フィルも一時低迷が伝えられ、栄光の歴史に陰りがみられるようになった。



Dresdner Philharmonie

しかし、大作曲家たちとつくりあげた音楽は、楽団員たちの心にしっかりと根付き、その伝統は脈々と受け継がれていた。1990 年東西ドイツが統一されてからは、ブラッソン、ヤノフスキといった名匠を首席指揮者に迎え往年の輝きを取り戻した。2011 年に首席指揮者に就任したミヒヤエル・ザンデルリンクは、楽団員の心をわしづかみにしなんと 2019 年までの長期契約を結び、耳の肥えた地元ファンをうならせる名演奏を連発。伝統あるオーケストラの新たな黄金時代を築きつつある。